

今号の作業

ディスプレイベースに制御基板とスイッチを取り付ける

今号では64号で提供したスイッチパネルに、裏ぶたとなる「スイッチパネルカバー」を取り付ける。その後、63号で提供したセンターボックスとともにディスプレイベースへの取り付けを行い、ベースをほぼ完成の状態にする。注意点はコネクターケーブルの扱い。引っ張ったり、無理な力を加えないよう慎重に作業を進めよう。

今号のパーツ



- ①スイッチパネルカバー×1
- ②スイッチパネルホルダー×1
- ③ビス(Jタイプ)×3(※1本は予備)
- ④ポリウムノブ×1

用意するもの

- ディスプレイベース(62号で組み立てたもの)×1
- センターボックス(63号で提供したもの)×1
- スイッチパネル(64号で提供したもの)×1
- 4×10mmワッシャー付きビス×4(60号で提供したもの)
- 4×9mmワッシャー付きビス×2(60号で提供したもの)

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

使用する道具

- +(プラス)ドライバー(1番、2番)

あると便利な道具

- サンドペーパー(400番程度のもの)

【注意】ディスプレイベースは木製のため、湿度や気温の影響によりゆがみが生じる場合がありますが、これはモデルの仕様であって不良ではありません。気になる場合は「厚手の両面テープ」を使っての対処をお勧めします(※対処法は手順の中で示します)。該当箇所への接着剤の使用は、パーツ表面の塗装をはがす恐れがあるので注意してください。

STEP
1



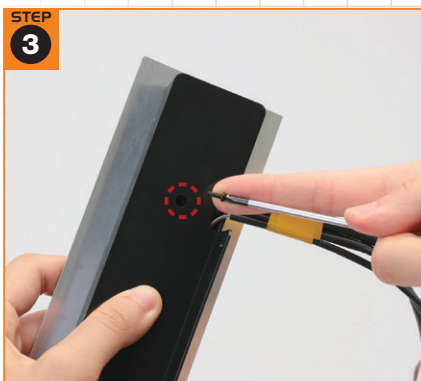
64号でケーブルの仮留め処理をしたスイッチパネルを用意し、その裏側に①スイッチパネルカバーを写真のようにセットし、はめ込む。このとき、写真で示したポスト部に、ケーブルを挟まないよう注意すること。

STEP
2



スイッチパネルカバーをしっかりとはめ込む。写真で示したビス穴の奥は、スイッチパネル側のポスト先端がはまるようになっているので、この部分もしっかりと押さえておくこと。

STEP
3



③ビス(Jタイプ)を用意し、写真で示したスイッチパネルカバーのビス穴へセットする。

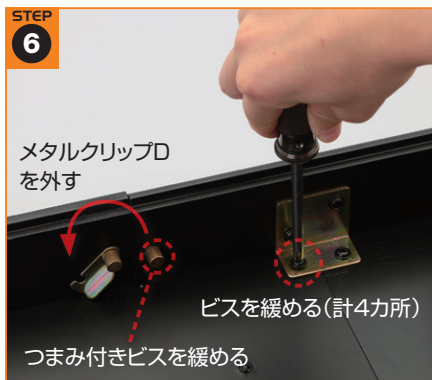
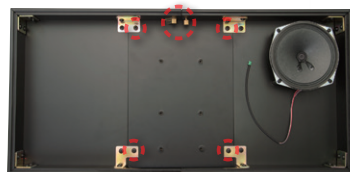
STEP
4



スイッチパネルカバーが外れないように保持し、1番の+(プラス)ドライバーを使ってJタイプのビスをねじ込む。



反対側のビス穴にもJタイプのビスをセットし、ドライバーでねじ込む。



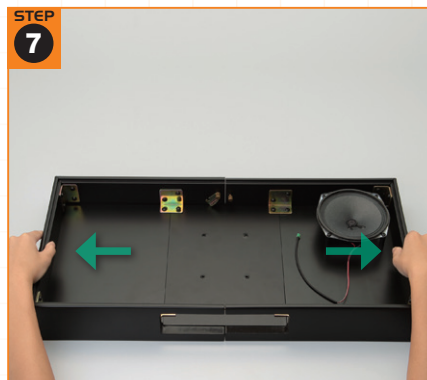
STEP
6

メタルクリップDを外す

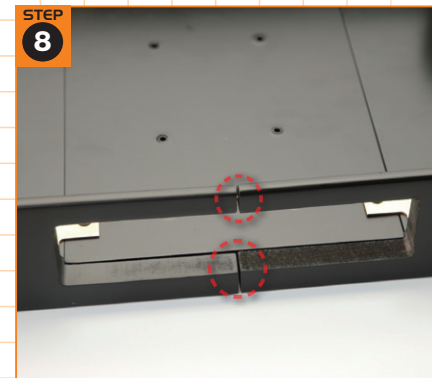
ビスを緩める(計4カ所)

つまみ付きビスを緩める

62号で組み立てたディスプレイベースを用意し、写真で示した4本のビスとつまみ付きビスを緩め、メタルクリップDを回してロックを外しておく。



ディスプレイベースを左右に引っ張り、中央部の継ぎ目を広げる。

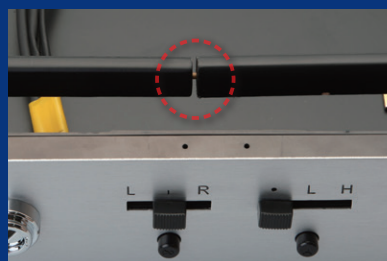


写真のように、中央部の継ぎ目が広がり、すき間が開けば次の工程の準備完了だ。



⑤で組み立てたスイッチパネルをディスプレイベース前面中央の開口部へセットする。先にコネクターケーブルを通しておこう。

POINT



写真のように、ディスプレイベース中央の継ぎ目部分が“スイッチパネル側”に向かって少し反ってしまっている場合がある。これはディスプレイベースの素材である木材が、空気中の湿気を吸って膨張したためだ。このままでも時間がたてば元に戻るが、気になる場合は次ページの「両面テープを使った取り付け方法」を参照して組み立てよう。



スイッチパネル裏側の樹脂ケースの下部を、ディスプレイベース開口部の下側に合わせて、写真のように差し込む。



スイッチパネル裏側の樹脂ケース上部を、ディスプレイベース開口部の上側の縁に合わせる。このとき、⑩で差し込んだ樹脂ケース下部を、開口部から外れないギリギリのところまで手前に引いておく。



スイッチパネルの前面を押し、樹脂ケースを開口部の中に収めたら、⑦とは反対に中央へ向かって押し、開いた継ぎ目を閉じる。なお、樹脂ケースと開口部とのクリアランス(すき間)は非常に小さいので、樹脂ケースを開口部に対して“真っすぐな状態”にするのが上手くはめ込むコツだ。ただし、どうしてもはめ込めない場合は無理に押し込まず、400番程度のサンドペーパーを使って開口部の内側上下を少しだけ削ろう。



②スイッチパネルホルダーを用意し、スイッチパネルの樹脂ケース上部中央に設けられた穴に、スイッチパネルホルダーのピンを写真のようにセットする。



60号で提供した4×9mmワッシャー付きビスを用意し、写真で示したスイッチパネルカバー下のビス穴にセットする。



2番の+(プラス)ドライバーを使って、4×9mmワッシャー付きビスをねじ込む。



もう1カ所のビス穴にも4×9mmワッシャー付きビスをセットし、ドライバーでねじ込もう。



スイッチパネルホルダーのピン先端を、穴に対して斜め後方から差し入れる。



差し入れたピン部分を支点とし、スイッチパネルホルダーを前側に起こすようにしながら樹脂ケースに押し込む。このとき、できるだけゆっくりと作業を行わないとピンが折れてしまうので注意しよう。

両面テープを使った 取り付け方法

STEP⑨の段階で、ベース中央の継ぎ目部分が反っており、それが気になる場合は以下の方法で組み立て作業を行おう。

- ①スイッチパネル裏側・左右の、樹脂ケースとアルミプレートとの間に、幅5mmにカットした厚手の両面テープを貼る。なお、両面テープの厚さは1mm以上が望ましい。
- ②STEP⑬までは、手順の通りに組み立てる。
- ③STEP⑭と⑮のワッシャー付きビスは、緩めにねじ込む。
- ④STEP⑯～⑰は不要。スイッチパネルホルダーは使用しない。

この方法で組み立てれば、パーツの反りを両面テープの厚みが吸収してくれる。なお、以降の手順に変更はない。



STEP 19
メタルクリップDを
ロックする

つまみ付きビス
を締める

ビスを締める(計4カ所)

⑥で緩めた4本のビスを再び締め直す。さらにメタルクリップDを回してディスプレイベース背面をロックし、つまみ付きビスを締め込む。



STEP 20

63号で提供したセンターボックスを用意し、内部のコンネクターにスイッチパネルから伸びたコンネクターケーブル(5本:O・P・Q・K・M・N)を取り付ける準備をする。コンネクターケーブルは非常にデリケートなので、取り扱いには十分に注意すること。



STEP 21

まず、「P」3PINのコンネクターを、センターボックス内部の基板に設けられた「P」のコンネクターソケットに差し込む。他の4本のコンネクターもそれぞれ「同じ記号のソケット」に差し込む。

「O」3PIN:ロービーム/ハイビーム
「P」3PIN:ボリュームコントロール
「Q」4PIN:プレーキライト
「K」2PIN:スピーカー
「M」3PIN:アクセル/ホーン
「N」3PIN:左/右 サイドウインカー



STEP 22

差し込む際のコンネクターとソケットの向きは、コンネクターの中央付近に線状のリブがある面を、ソケットの溝のある面に合わせる。コンネクターをソケットに差し込むときは、かならずコンネクターの樹脂部分を押し込むようにする。ケーブル部分に無理な力が加わると、断線などのトラブルを起こす危険があるので慎重に作業しよう。



STEP 23

スイッチパネルから伸びていた5本のコンネクターケーブルの取り付けを終えたら、センターボックスを裏返したまま写真の位置に置き、スピーカーから出ているコンネクターケーブルをグリーンソケットに差し込む。



STEP 24

スイッチパネル側のコンネクターケーブル5本と、スピーカーのコンネクターケーブルを、写真のようにセンターボックス左右のくぼみにそれぞれ収める。



STEP 25

各コンネクターケーブルがくぼみから外れないよう注意しながらセンターボックスを表向きにし、ディスプレイベース中央のビス穴に合わせる。



STEP 26

写真で示したセンターボックスのビス穴へ、60号で提供した4×10mmワッシャー付きビスをセットする。



2番の+ (プラス)ドライバーを使い、4×10mmワッシャー付きビスをねじ込む。



計4カ所あるセンターボックスのビス穴すべてに4×10mmワッシャー付きビスをねじ込む。



スイッチパネル右側にあるボリュームつまみをゆっくりと左方向いっぱいに戻す。このとき、力を入れ過ぎないように注意すること。



④ボリュームノブを用意し、赤丸に示した目盛りが写真の位置になるよう、ボリュームつまみにセットする。



ボリュームノブを真っすぐに押し込んで取り付ける。



サウンドギミックの音量を調節するスイッチが、このボリュームノブだ(コネクター「P」3PIN)。ノブをゆっくりと左右に回し、スムーズに回ることを確認しよう。なお、ノブを左いっぱいにした状態が「最小音量」、右いっぱいにした状態が「最大音量」となる。



次に、スイッチパネル前面右側上部のスライドスイッチの動作確認を行う。これはライトの点灯/消灯を切り替えるスイッチだ(コネクター「O」3PIN)。まず、スイッチを一番左側に寄せる。この状態が「ライト消灯状態」だ。



スイッチを「L」の刻印に合わせて動かす。このとき、カチッという感触があればOKだ。なお、この状態は「ライト点灯／ロービーム」となる。



スイッチを一番右側に動かし、カチッという感触があることを確かめる。この状態が「ライト点灯／ハイビーム」だ。



続いて、スイッチパネル左側上部のスライドスイッチの動作確認を行う。これはウインカーを操作するスイッチだ(コネクター「N」3PIN)。まず、スイッチを中央の刻印に合わせて動かす、カチッという感触があることを確かめる。この状態は「直進時」を示しているため、左右ウインカーは点滅しない。



スイッチを右側に動かし、感触があることを確認する。この状態は「右折」で、車体前後の右ウインカーが点滅する。

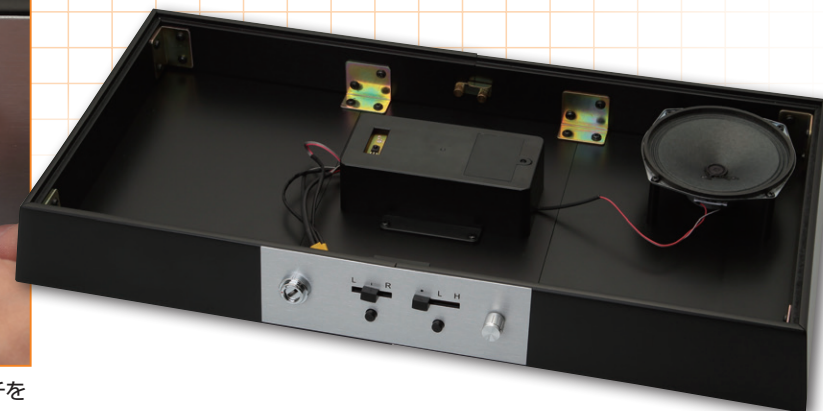


スイッチを左に動かして感触の確認を行う。この状態は「左折」で、車体前後の左ウインカーが点滅する。



最後に、スライドスイッチの下に配された2個のボタンスイッチを確認しよう。右側が「セルスタートボタン」、左側は「ホーンスイッチ」だ(コネクター「M」3PIN)。なお「セルスタートボタン」は、2回押すと「空吹かし時の排気音」に変化する。

今号の完成



今回の作業はここまで。ディスプレイベースの組み立て作業は、今回でほぼ完了となり、最後の仕上げとなるアクリル板とスピーカーネットの取り付けを待つばかりとなった。前面のスイッチパネルは実車のレイアウトだけでなく、各スイッチの形状までも再現したリアルなものだ。マシンを載せる時まで、大切に保管しておこう。